

照葉樹林だより

綾の森を世界遺産にする会 会報

2005年10月20日 創刊号

てるはの森回廊構想の実現に向けて

綾の森を世界遺産にする会代表 上野 登

私たちは現在、地球環境との関係で大きな曲がり角にきています。1992年のリオの「地球サミット」は、グローバルな環境対策を提起しました。その世界的な流れを受けとめる対応が求められ、1997年には地球温暖化に対する「京都議定書」が採択されました。アメリカやその他の国のために遅れましたが、ようやくロシアの承認で2005年2月に発効しました。私たちは2004年の10回に及ぶ台風の災害、2005年の台風14号の災害、そしてアメリカの2回のハリケーン災害やベンガル湾域のサイクロン災害は、私たちの対応の遅れを「天」が警告しているように思われてなりません。

この温暖化を導いた原因の一つに緑の喪失があげられています。リオのサミットでは「森林原則声明」が採択されました。これは「森林の機能(生態系の維持,生物多様性の宝庫,エネルギー資源、炭素の吸収源、雇用の創出など)を発揮させるために



保全及び持続的経営への努力が重要である」ことを基本に、「各国は適切なレベルでこの原則を追究すべきである」と要請していました。日本の国有林政策はこれを受けとめ、2001年に「新森林林業基本法」を制定しました。これは森林経営を①水土保全機能林、②森林と人の共生機能林、③循環型利用機能林の編成のうえに、「国民の森林」として管理していくという、利益追求経営からの転換を示したものです。同時に青森営林局から始まっ

た「緑の回廊計画」を拡大していきました。

私たちは、このような動きをみて、宮崎平野を取り巻く国有林のなかに残っている照葉樹林を回廊的に復元する計画を構想し、2004年に県知事に要望書を提出し、推進協議会を結成し九州森林管理局に陳情する活動を始めていました。

その推進の中心になったのは「綾の森を世界遺産にする会」でした。綾の森の価値を広く知らせ、開発から守るために同会を発足させ、2002年10月1日から署名運動を始め、2ヵ月で14万人の署名を得、12月に環境省に陳情しました。環境省と林野庁は、世界自然遺産候補地検討会を

2003年3月から始め、綾は最終段階まで残りましたが、面積が狭いので復元の努力を待つ、ということになりました。この要請を受けて、回廊構想の運動を起こしていたのです。

2004年10月、九州森林管理局から相談の申し

入れがあり、会合を持ちました。管理局は管内の十数カ所を対象に森林復元計画を検討した結果、綾の森が最適と判断し、会合に及んだのです。この双方の理念の一致が、今回のプロジェクトを誕生させたのです。私たちは、「綾の照葉樹林プロジェクト」推進で世界遺産への夢をつなぎ、さらに、宮崎平野を囲む「てるはの森回廊構想」の実現に向け、100年計画を推進していくことを考えています。(宮崎大学教育学部 名誉教授)

建造物に置き換わっていますが、自然植生が調べられない状況ではありません。大森岳の森林自然植生が、前述した尾鈴山・掃部岳二つの山系と大きく異なるのがブナ林の欠落です。大森岳は掃部



大森岳山頂部に僅かに残る夏緑常緑混交林

岳の南、直線距離にして約 7.2 km にあり、高度差が 114 m しかないにもかかわらず、ブナ林は存在しません。ブナ林が無いことにより、ブナ林の高木層や亜高木層を形成しているミズナラ、コミネカエデ、コハクウンボク等の姿も見られません。大森岳山頂付近で発達している林分は、コハウチワカエデやヨグソミネバリ、アオハダが優占し、その中にツガとアカガシが混生するものです。群落優占種に注目すれば夏緑広葉樹林と言えますが、冬季には常緑樹が点在する林相となるだけでなく、下層にはシキミやハイノキ、ミヤマシキミ、イヌツゲ、ヤブツバキ等を伴っており、種組成的には群落移行帯要素で構成される複合森林です。照葉樹林域の森林自然植生は、前述二つの山系と基本的には同じと言えます。ただ、残されている森林自然植生面積が広いと、様々なタイプの森林植生や多くの照葉樹林構成要素の種が見られます。特殊立地上のアラカシ林やホソバタブ林の他、ブナ林要素のサワグルミやカツラの優占する林分、イヌブナの混生するカシ林、ハナガガシの優占する林分等、変化に富んでいます。また出現種の面から見ると、多くの着生植物を伴った林分が多いことや、ヤマハンショウズルやオオスミツトリモチ、ヨコグラノキ、ヤクシマラン、ユウシュンランなど、特異な種を伴う林分等が見られます。

鰐塚山 宮崎平野環状山地の南部の少し内陸部に位置し、東岳や朝陣野等で構成される鰐塚山系の最高峰です。海拔は 1119.2 m で、綾の大森岳よりも約 10 m 高い山です。山頂部は電波塔の施設になっており、その周辺は半自然植生の低木林とな

っています。山頂付近の低木林は、アカガシやヤブツバキ・アセビが優占し、低木層にシロモジ、コハウチワカエデ、シラキ、ヒメシャラ、アオハダ等の夏緑広葉樹、草本層にニシノヤマタイミンガサ、ツクシミカエリソウ、ヒメウワバミソウを伴います。鰐塚山は大森岳より標高が高いにもかかわらず、相観的にも夏緑広葉樹高木林はもはや成立していません。しかし、ナンゴクミツバツツジやミヤマクロモジ、シロドウダン等を伴うマンサク群落が見られる事を考えれば、鰐塚山にはかろうじてブナ林要素が遺存的に生き残っている状況と言えます。このように鰐塚山系は襲速紀要素の植物の分布南限に位置するため、尾鈴山・掃部岳・大森岳に共通に見られた多くの植物が欠落します。鰐塚山特有の種として、イワザクラ、ヒュウガヒロハテンナンショウ等があります。

岩坪山 宮崎平野環状山地の南部海側に位置する徳蘇山系の最高峰です。これまで述べてきた4つの山の標高がすべて 1000 m を越え、黒潮の影響から離れた位置にあったのに比べて、岩坪山の標高は 737.6 m と低く、東側は黒潮のぶつかる日南海岸となっています。その結果、宮崎県内にあつては亜熱帯性植物を最も多く含む山塊となっています。このため、ツツジ科植物や広域分布型の落葉低木の一部を除き、森林自然植生の中にブナ林要素を見つけることは難しく、照葉樹林域の垂直分布を見ても、本来のモミ・ツガ帯成立の標高部分がないため、モミ・ツガ林が、カシ林の中の岩稜尾根部に島嶼的に分布しています。

綾の森 さて、宮崎平野環状山地の森林自然植生が概観できたところで、綾の森（ここでは大森岳と掃部岳を合わせて指します）が持つ面白さについて最後に一つ触れておきます。

綾の森の持つ最大の面白さは、山頂部植生の異なる掃部岳と大森岳の存在です。大森岳より約 12 km 南に位置し標高も 42 m 低い鹿児島県の紫尾山（1067m）にはブナ林が見られ、約 68 km 南に位置する標高 1237 m の高隈山にはブナの大木が見られるのに、大森岳にはブナそのものが見られません。このことから、およそ 1 万年前に本格的温暖期が始まる以前の晩氷期（約 1.5～1 万年前）には、大森岳はもちろん、薩摩半島北部や大隅半島北部の山地付近までブナ林が広がっていた事が推測されます。それが何故、大森岳から消滅してしまったのか。地球温暖化問題を目の前にして、ますます興味と関心は深まるばかりです。 （日本生態学会会員）

「てるはの森の会」事務局から

「綾の照葉樹林プロジェクト」の動き

- 「綾川流域照葉樹林帯保護・復元計画（通称：綾の照葉樹林プロジェクト）」調印式
(2005年5月28日)

九州森林管理局・宮崎県・綾町・(財)日本自然保護協会・てるはの森の会、以上5者が協定書に調印し、プロジェクトが始まりました。

- 第1回連携会議・検討委員会の開催
(2005年7月1日)

本プロジェクトでは、協定の運営に関する意見・情報の交換、行動計画及び目標の策定、並びにこれに基づく各種活動の形成や対象地域に係る各種計画等との調整等を円滑に進めるために、5者からなる連携会議を開催しています。この日の会議では、今年度の事業計画と予算案が審議・承認されました。また、有識者等からなる検討委員会も開催され、対象地域における保護林等の設定時期や、人工林から照葉樹林への復元方法等について話し合われました。

- 連絡調整会の開催

(2005年6月16日、8月19日、9月20日)

円滑な連携会議の運営、連携会議への必要な提案を行なうとともに、プロジェクト活動に係る実務的な調整等を行なうため、毎月1回程度、連絡調整会が開催されます。これまで3回の会議を開き、参加機関からのプロジェクト進捗状況報告、連携会議で承認された各事業の具体的な実施方法等についての討議などが行なわれました。

- 第2回検討委員会の開催

(2005年10月3日)

保護林及び緑の回廊の設定案について話し合わせ、照葉大吊橋周辺を「郷土の森」に、大森岳周辺及び掃部岳周辺を「植物群落保護林」に設定するとともに、これらの保護林を相互に「緑の回廊」で連結することが了承されました。また、核心部の「森林生態系保護地域」指定については、平成18年度以降、有識者による検討を行なうことになりました。その他、「将来的には掃部岳周辺の民有林についても『緑の回廊』として取り込むことを検討してほしい」「間伐木の搬出方法は、林内を攪乱しないような方法を検討すべき」「照葉樹林の発生、育成は、自然の復元力を活かすことを徹底すべき」「復元の状況を見ながら、場合によっては播種等も検討すべき」という意見が出されました。

「てるはの森の会」とは？

「綾の照葉樹林プロジェクト」の民間部門で、宮崎県内の7つの市民活動団体が発起人となって設立されました。今後、幅広く民間会員を募りながら、活力あるプロジェクトの推進母体を目指します。プロジェクトの中核的役割を担う事務局を担当します。

ご協力をお願い

「綾の照葉樹林プロジェクト」は、官・学・民が一体となって照葉樹林の保護と復元に取り組む壮大で前例のない計画ですが、この活動をすすめるには、あなたの参加が是非とも必要です。

- ① **会員になってください。** 入会申し込みは、下記「てるはの森の会」事務局にご連絡ください。

年会費	個人サポート会員	2000円
	家族サポート会員	3000円
	団体サポート会員	5000円
	法人サポート会員	10000円

会員になっていただくと、照葉樹林やプロジェクトに関する情報を掲載した「**照葉樹林だより**」を年4回お届けします。プロジェクトが実施するイベントや各種行事に参加できます。

- ② **ご寄付をお願いします。** プロジェクトの活動は、皆様からの会費やご寄付から成り立っています。暖かいご支援をお願いいたします。

プロジェクトに関することは何でもお気軽に
下記事務局にご連絡ください。

綾の森を世界遺産にする会 会報
創刊号 2005年10月20日
発行：綾の森を世界遺産にする会
事務局：てるはの森の会
〒880-0014 宮崎県宮崎市鶴島2丁目9-6
みやざきNPOハウス403号
TEL 0985-35-7288 / FAX 0985-35-7289
E-mail teruha@miyazaki-catv.ne.jp
URL <http://www.teruhanomori.com/>

(表紙の写真「綾南川沿いの林内」 撮影 坂元守雄)